

## 4 定期的に活動している団体や施設での活動の様子・感想紹介

ボランティアステーションでは、定期的に活動を行っているボランティア団体や、定期的にボランティアを募集している市内の施設と連携をとり、ボランティアを募集しています。そこに、多くの青少年がボランティアとして活動に参加しています。



### NPO法人 北九州ビオトープ・ネットワーク研究会

この研究会は、生態系・景観保全に関する活動を数多く行っています。その活動の一つとして「平成竹取伝説」という活動名で、毎月第2土曜日に、若松区の学術研究都市ひびきの地区の竹林保全活動を行いました。



#### ☆平成竹取伝説 (毎月第2土曜 若松区ひびきの地区)



○ 私は今回のボランティア活動を通して、たくさんの言語を話せるようになりたいなと思いました。留学生の方々がいて、簡単な英語は話せたけどもっとスムーズに、そして、より多くの方とコミュニケーションを取るためには、たくさんの言語を理解する必要があるのだなと思います。様々な言語に対して、少しだけですが興味が出てきました。今回でボランティアをするのは4回目、一回一回違ったものを得られているような気がします。ただ、共通点はどのボランティアも人との関わりが重要だということです。

【九州国際大学付属高校 2年】

○ 実際に竹に触れてみて、思ったより簡単にのこぎりで切れることに驚いた。しかし、それほど広くない範囲をきれいに整備するのに、何十人で何時間も作業しなければならないのは、大変だった。竹材整備している人の苦労が身に染みて分かった。竹の活用をもっとしていきたいと思うのと同時に、またボランティアに参加したいと思った。

【東筑高校 2年】

○ 竹林を守ることも環境を守ることに繋がるということを知って驚きました。また、平成からこの活動が長く続いているということを知って感動しました。今回は草取りが主になっていたのも、冬の時期に機会があれば参加して竹を切りたいと思いました。

【一ツ葉高校 2年】

○ 活動の初めに竹林や竹害について説明していただき、今回の活動の目的を知ることができました。活動参加前に竹害について、少し調べてみてはいたのですが、あまり理解できていませんでした。しかし、説明を聞いて、竹林の放置による生活多様性の崩壊や生物の単一化が起きてしまうことを知りました。また、竹は地下茎で繋がっているという点には、とても驚きました。活動内容は、竹の伐採を中心として、その他にゴミ拾いや落葉拾い等でした。黙々と作業をし、活動開始前と比べて見違えた竹林を見て、達成感が生まれました。北九州市の竹林範囲はとても広大であることから、多くの人が活動に参加することが、竹林保全につながると感じました。また、伐採した竹の活用方法として、竹のチップからできるコンクリートや竹灯籠等が現在挙げられますが、竹の資源をより無駄にせず、有効活用できる方法が見つければよいと思いました。

【熊本大学 3年】

### 小倉城竹あかり実行委員会

北九州市の魅力あるイベントとして、2019年から始まった「小倉城竹あかり」には、毎年多くの来場者があります。イベントで使われる竹は、小倉南区合馬地区の竹を利用し、北九州市の観光に役立ると同時に、循環型社会のモデルとしても注目されています。

#### 作業場準備、竹材洗浄 (4-5月 小倉北区 コクラボ)



○ まず、一番強く感じたことは、ボランティアの受け入れ先の職員の方々が私たちや市民を楽しませようと様々な活動をしてくださっているのだということです。私たちが当たり前のように目にしたり、耳にしたりする市の祭りやイベントなどには、相当の労力が注がれ、開催して下さる方々の想いがたくさん詰まっているのだと身をもって実感しました。今回のボランティアは、自分が楽しただけではなく、私たちのような力を必要として下さる

方々がいて、私たち若い世代が率先して地域の活動に参加すべきなのだ気付かされるものでした。今後はボランティアとして手伝うという考えではなく、住民の一人として北九州市の発展に尽力したいと思います。

【戸畑高校 2年】

○ 今回の小倉城竹あかり洗浄ボランティアに参加して、竹林問題を抱えている市の竹を伐採して多くの作品を作り、小倉城に活気を高める活動に魅力を感じたので、10月の小倉城竹あかりを見に行こうと思います。

【麻生公務員専門学校 2年】

#### 竹灯籠制作 (6-10月 小倉北区 コクラボ)



○ 竹あかりを行うことは、まちおこしにつながるだけでなく、竹の放置問題解決やイベント後には竹炭として姿を変えていることを知りました。SDGsに興味があり、マイクロプラスチックについて調べたり実験を行っていた私にとって、興味深い話もあり制作補助のみならず沢山のことを学べた良い機会でした。

【梅光学院高校 3年】

○ 私は、今日のボランティアを通して、小倉城竹あかりのことを知りました。観光、環境、市民力という3つの意義を知り、とても素敵なイベントだなと思いました。特に、市民力は、1年かけて市民の協力によって作り上げられる小倉城竹あかりにしかできないことだと思います。自分が行った作業がこのイベントの1つになると思うととても嬉しく、楽しんで作業をすることができました。また、今まで知らなかった竹の良さを実際に竹に触れる中で知ることができました。

【八幡南高校 3年】



#### 小倉城竹あかり 作品搬入・撤去、会場準備、片付け等 (10-11月 小倉北区 小倉城 コクラボ)

○ スタッフの方が言っていた「1円の仕事ができない人間は、1億円の仕事ができるわけがない」という言葉にとっても共感しました。竹あかり1万個に火を着ける作業は地味な作業で、まさに「1円の仕事」かもしれないけれど、そのような細かな作業も一生懸命に頑張るべきだと思います。

【東筑紫学園高校 1年】

○ 自分達でどこのろうそくが入れ替わっていないかを見て、声をかけて協力し合って活動したことで、自主性が養われたと思う。暗くなって点灯をした。6時くらいになると、とても灯りがきれいに灯った。中心となって活動を運営されている方、ボランティアの方、ろうそくを囲む絵を描いてくれた小学生や幼稚園生などの力が集まってできた素晴らしいものだったと思った。人に感動してもらいたいという一心で活動することの大切さを学んだ。また、運営の中心の方が「効率より効果」と教えてくれた。【八幡南高校 2年】

○ 今回ボランティアに参加してみて、他の国の方もお手伝いとして来られていて、色んな人に支えられているお祭りなのだ改めて感じました。本番だけでなく、来年のために行う片付けもすごく大切だということを知ることができました。

【八幡中央高校 2年】